

〔令和7年度事務事業〕

Ⅱ．事業目的の達成状況							
事業の成果や活動実績の測定							
11	成果指標	単位		実績		目標	目標 点検対象年度（市基本計画2030）
	堺市献血推進協議会が協力する市内献血における献血協力者数	人		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和12年度
			目標値	2,203	2,203	2,203	2,203
			実績値	2,087	2,001		
			達成率	95%	91%		
	当該指標を選定した理由	輸血用血液の安定的な確保状況を把握する指標となるため。					
目標値の設定根拠・算出方法	目標値＝過去の実績（R1年度以降）の最大値（※実績値を踏まえ、R6年度に目標値を見直し）						
12	活動指標	単位		実績		目標	
	堺市献血推進協議会が協力する市内献血の実施回数	回		令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目標値	—	52	52	
			実績値	51	49		
			達成率	—	94%		
	当該指標を選定した理由	身近な場所で献血できる機会を増やすことが、献血協力者数の増加につながるため。					
目標値の設定根拠・算出方法	目標値＝過去の実績（R1年度以降）の最大値（※実績値を踏まえ、R6年度に目標値を見直し）						

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名		赤十字・献血促進事業				事業番号		007-007					
Ⅲ. 投入量													
事業コスト													
※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）													
項 目		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度					
		決算		決算		当初予算		当初予算					
13	財 源 内 訳	事業費（a）		450		450		450		404		450	
		国支出金		0		0		0		0		0	
		府支出金		0		0		0		0		0	
		市債		0		0		0		0		0	
		その他（ ）		0		0		0		0		0	
		受益者負担金(使用料、手数料等)		0		0		0		0		0	
		一般財源		450		450		450		404		450	
14		人件費（b）		5,670		5,670		6,720		6,720		6,090	
15		年間経費（c）=(a)+(b)		6,120		6,120		7,170		7,124		6,540	
事業費の内訳													
（単位：千円）													
16	事 業 費 内 訳	項 目		年度		事業費	うち 一般財源	項 目		年度		事業費	うち 一般財源
		堺市献血推進協議会事業補助金		R7	決算	404	404			R7	決算		
				R8	予算	450	450			R8	予算		
				R7	決算					R7	決算		
				R8	予算					R8	予算		
				R7	決算					R7	決算		
				R8	予算					R8	予算		
				R7	決算					R7	決算		
				R8	予算					R8	予算		
				R7	決算					R7	決算		
				R8	予算					R8	予算		
				R7	決算					R7	決算		
				R8	予算					R8	予算		
		R7	決算					R7	決算				
		R8	予算					R8	予算				
Ⅳ. 事業の効率性													
単位当たり経費													
17	区 分		単位		令和6年度		令和7年度						
			① 地域献血における献血協力者		人		2,087		2,001				
			② 上記①にかかる年間経費		千円		894		908				
			③ 単位当たり経費（②÷①×1,000円）		円/単位		428		454				
	算出についての説明等		② = （地域献血回数×1人×時間単価×2時間） + 補助金										
Ⅴ. 評価													
費用対効果に係る所見													
18	・地域献血回数の減少により献血者協力数が減少したことにあわせて、人件費が上昇したため単位当たり経費が増加した。												
	・本事業は、輸血用血液の計画的な確保、献血思想の普及及びその推進に資するものであり、献血協力者の確保に向けた取組の実施に係る費用対効果としては妥当と考える。												
KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）													
19	本事業は、堺市献血推進協議会や大阪府赤十字血液センター等と連携し、若年層をはじめとする多くの市民に献血思想の啓発・周知活動を推進することで、長期保存や人工製造ができない血液の安定的な確保に寄与している。												
20	令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載）												
	必要性 ■ 高い □ 低い 有効性 ■ 高い □ 低い	献血は、病気の治療や手術などで輸血を必要としている方の命を救うために、医療機関へ安定的に血液等を届ける社会貢献活動であり、献血思想の普及及びその推進を図る本事業の必要性は高い。また、献血協力者数は令和6年度以降は減少傾向にあるものの、コロナ禍を除く直近3か年の平均は2097人であり、一定の実績が維持されていることから、本事業の有効性も確認できる。											